

令和七年九月吉日初版作成

天命を完うする人生を生きる

高嶋 善三郎

目 次

- 自分をおかすものは何もない・・・・・・・・・・・・・・ 3
- どんな苦しみも最後はなくなる・・・・・・・・・・・・・・ 4
- どのような状況でも自分の心を乱さない・・・・・・・・・・ 5
- 徳を積むことにより本心は開かれていく・・・・・・・・・・ 7
- 愛に共鳴する喜びと感謝の心が溢れる・・・・・・・・・・・・ 8

お 願 い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、「感想があれば、お聞かせください。」

次の連絡先にお問い合わせ致します。

（スマホ） 090-3334-66619

（メールアドレス） zensan@peach.ocn.ne.jp

自分をおかすものは何もない

私たちは、どのように生きたら、天命を完うする人生になるのでしょうか。それにヒントを与える、五井先生のお言葉があります。それは、『大決意』の中の「生き方について」です。

この中で、私たちは「消えてゆく姿で平和の祈り」の実践をより高度なものにしていけるヒントを多く得られます。

まず、大切なのは、自分があきらめない限り、すべては成就できると解説されています。

「焦ってはいけません

世界平和の祈りを祈っている

あなたの運命はもう決まっています

良くなるように決まっています

世界平和の祈りは最高の祈りなのだから

みんなが平和になるということは神のみ心なのだから

平和の祈りのなかに入ったあなたは

悪くなりようがありません

必ず良くなるに決まっている

よくなるようにきまっていると思っ

どんなことが現われても あせらないで

悪いことが現われたら消えてゆく姿と思っ

一生懸命祈っていれば

知らない間に

現われてくるものがどんどんいいものになって変わってゆく

そのうちに いいも悪いも問題じゃなくて

いつもの心が平安になることだけを目指してゆくようになるのです

世界平和の祈り一念で生きていけば

守護霊守護神さんがうまくやってくれるんだ

自分の感情 業に関心を持ちすぎると

業の浮沈み 流れにひかれ

一生懸命業を追いかけるようになり

だんだん本当の自分からはなれていってしまっ

そんなものはどうでもいい

出るべきものは出る

出ないものは出ない

消えるものは消えるのだ

一度 突っ放しちゃって

世界平和の祈りの中にいれちゃうのです

すると

朗らかになるし 明るくなるし 恐れなくなる

何があっても怖くない

何があっても怒らない

何があってもいやでない

なんでも来い という気持ちにならなきゃだめだ

何が来たって

自分をおかすものは何もないんだ

自分をおかすものは自分の想いだけしかないんだから

自分に想いがなかったら

何もおかされない

何があっても驚くことはないんですよ

恐れることはありません

どんな嫌なことがあっても

それは瞬間です

一日か二日か

一月（ひとつき）か三月（みつぎ）か 一年か三年か十年か

五十年やったって

たいしたことはないんですよ

過ぎてごらんさい

たいしたことはないから

どんな苦しみも最後はなくなる

私たちは、最後に阿弥陀三尊や守護神さんが迎えに来て、いい処へゆ

くことになっており、その時自分の人生の中で、どのような苦しみも、

有難いなアと思えたら、今までのことは全部消えてしまつのです。

「最後の死ぬ一瞬に

あゝよかったな

神さまが迎えに来てくださって有難いなアと思えたら

今までのことは全部消えてしまいます

八十才で死ぬとして

七十九年十一ヶ月何時間苦しんでも

最後の最後の一瞬に

阿弥陀三尊が迎えに来て

守護神さんが迎えに来て

サアいらっしゃい

いい処へゆくんですよと連れっていつてくれば

それは有難いです

過去なんかどんなに苦しんでもなんでもない

今 皆さん苦しんだことを思い出してごらん下さい

苦しくないでしょう 楽しいような気がするでしょう

あゝよく私は切り抜けて来た

私も案外偉いんだな と思うでしょう

人間の本性は

善で 光明だから

どんなに辛い想いを思い出しても

思い出した時には辛くない

どんなに自分をいじめた奴でも

思い出して憎らしいというというよりも

あゝああいう人もあったなあ

あの人によって磨かれたな くらいで

みんな美化されてしまいます

人間の本性は

善で 光明なのです」

どのような状況でも自分の心を乱さない

どのような状況でも自分の心を乱すことは、神さまのみ心を穢(けが)

すということになるのです。み心を穢すものは消えてゆく姿として、世

界平和の祈りの中に入れてなくなってしまうことが大切なのです。

「いける いけない

あいつが悪い こいつがいい

とやっているうちは絶対悟れない

人間何十才まで生きるかわからないけれど

八十まで生きると決めたら

最後には必ず救われることは決まっているのだから

のんきに 明るく

その日その日を感じて生きてゆきまじょう

神さまのみ心に一番叶うことは

人のために尽くして

裸の心になって生きてゆくということです

人のために尽くすということは

やはり自分のために尽くすということになるんです

自分のために尽くすことは

自分の本心のために働くこと

調和な世界をつくるように働くことです

調和を乱す心があったらいけません

たとえば相手が悪い人であって

無理難題をいつてきた場合でも

自分の心が乱れて

このヤロウやつつけちゃおう

という心が起きたら

そう思うのは無理もないことだけど

やっぱり自分が損をするのです

どんなに相手が悪い奴で

こちらがなんにも悪いことをしないのに

いじめてきても

こっちが怒りの想いや恨みの想いなどがでてくれば

自分の本心を乱します

相手がどうあろうと

それは関係ないこと

自分の心を乱せば自分に損になるのです

自分に損になるといことは

神さまのみ心を穢すということになるのです

み心を穢すものは消えてゆく姿として

世界平和の祈りの中に入れてなくなってしまう

一生懸命なくすように祈ることが大事です」

徳を積むことがよりの本心は開かれていく

相手から意地悪されても、自分の心を乱さずに、世界平和の祈りの中に入っていると、大きな徳を積んだことになるということです。

「自分が良い立場　良い心で良いことをしているのに

むこうが自分に意地悪したり

非道（ひどい）ことをしたりするということとは

実は過去世においてむこうに同じようなことをしていたんだ

それが自分に今かえって来ているんです

それは法則なんです

それをいつまでも繰り返している

いつまでも争いの波がおさまらなくて

やったりやられたり　やられたりやったり

輪廻してゆくわけなのです

そこでそういうものは

どんなに自分の立場がよかろうと悪かろうと

自分の心を乱すことはいけないことだ

相手を傷つけることはいけないことだ

ということにならないと

真実の世界平和がこの地球界にはできないんです

それを私たちはやろうと思っているんです

自分が良いことをしているということは

徳を積んでいるんです

むこうがひどいことをした場合

こっちが怒っちゃったら

折角積んだ徳がそこでマイナスになってしまう

いいですね

徳を積んだ時は光を出しているんだから

光が向こうへ必ず入ってゆくわけです

それなのにむこうが逆のことをしてくるということとは

こちらの本心をより開いてくれるということとは

こちらの本心をより開いてくれるために

神さまが業を早く消してくるために

むこうはわざと悪いことをしてくるわけなんです

そつすると徳を積んだ上に　そこで又

あゝこれは消えてゆく姿なんだな

向こうの天命も　こちらの天命も

ともに完うされますように　と

世界平和の祈りの中入ってしまうと

徳を積んだ倍も三倍も十倍も

パァッと本心が広がって開いてゆくのです

「ぺんに飛躍して立派になるんです」

愛に共鳴する喜びと感謝の心が溢れる

前々回の資料『最高の徳を積む』で、真の徳を積むことは、神聖をこの地上界に輝かすこととほぼ同一と気づいたところですが、真の徳を積むこと、神聖との関係をさらに整理してみましよう。

神聖は、本心ともいわれ、大自然の根源の働きをする生命を、その智慧能力で、大調和達成のために生かききってゆく働きである。この神本来の神聖の世界は、愛深き心、美しく清らかな心、真を尽くす心、善事をなす心等々、すべて人間生活を高め、深める心のひびきの世界です。

一方真の徳は、本心開発の道を突き進むことによつてのみ得られるもので、報いを求めぬ愛の言動を行うことにより積むことになります。

そして愛(徳)の言動が神聖の働きと一つになったとき、神聖の光は、その行為をした人とその行動に関与した人に放射されます。

従つて徳を積めば積めるほど、神聖の光は強く、大きく放射されます。

またここで言われている五井先生の、「こちらが愛の行為をしているにもかかわらず、むこうが逆のひどいことをしてきた時、“あゝこれは消えてゆく姿なんだなあ”むこうの天命も　こちらの天命もともに完うされますようにと、世界平和の祈りの中入ってしまうと、徳を積んだ倍も三倍も十倍もなり、パァッと本心が広がって開いてゆく」という言葉は日々の生活の中で、私たちに勇気と励ましを与えてくれます。

本心が開かれてくると、『正覚と顛倒夢想』で五井先生が言及されているように「光の波と自我欲望のカルマ」の区別ができるようになるので、どんな些細な光(愛)でもハートでキャッチでき、愛に共鳴する喜びと感謝の心が溢れて出てくるようになります。そして私たちの天命である、愛と調和の世界をこの地上界で創造するという悲願を思い出しますます本心が開かれていく人生を生きることになるのです。